

日中両語の非典型的受動表現について

謝, 新平

上海海事大学外語学院 | 九州大学芸術工学研究院 : 訪問教授

<https://hdl.handle.net/2324/1485146>

出版情報 : 漢日语言对比研究论丛. 2, pp.205-218, 2011-08. 北京大学出版社

バージョン :

権利関係 :

日中両語の非典型的受動表現について¹

上海海事大学外语学院

谢新平

提要 近年来,汉语的「被」字成为流行语,「被」字句与过去传统的被动句不一样,在结构上与名词,形容词,自动词,他动词搭配很松散。只表受害,不愉快,无奈,讥讽之意。被称为特殊被动句。在日语里也有被称为「迷惑被动」或「第三者被动」的被动句。最大语法特点是大量自动词的使用。在结构上是在能动句句首增加一个与之毫无关系的主语。只表主语主体受害、不愉快,无奈之意。过去在日语里被作为日语的特殊表达方式,特殊被动句。近年汉日语对比研究发展迅速,研究表明汉语里也有少量类似表现。谢(2009)从认知语言学的角度将它定义为最下位的非典型被动句。汉语的流行语「被」字的大量使用表明非典型被动句的增加。表明汉语非典型被动句在变化。

本文主要以汉语的流行语「被」字为重点,就汉日两语的非典型被动句的变化,从历时的观点进行了研究。

关键词 非典型 被动句 历时 动词

1. はじめに

自動詞と他動詞による迷惑の意味だけを表す非典型的受動表現は日本語独自の表現として知られている。その名付けは研究者によって異なり、間接受動(寺村 1982)、はた迷惑の受け身(三上章 1953)、「第三者の受け身」(鈴木 1972)等がある。謝(2009)も認知言語学の視点からこの現象を非典型的受動とし、典型的受動「直接受動」との違いを検討した。

しかし、2009年ごろから流行している中国語の受動表現には、自動詞、形容詞、更に名詞による「迷惑受動」が多く見られ、「はた迷惑」受動が必ずしも日本語独特の表現とも言えなくなってきた。本研究はこの極最近の現象を日中対照比較と通時的な観点から検討を試みる。このような通時的観点から日中の受動表現を考察する研究は管見の限りはまだ見当たらない。

- (1) “被失踪”是一种恐怖行为。 (失踪—自動詞) (南周)
- (2) 他的blog被和谐了。 (和谐—形容詞) (南周)
- (3) “我被火锅了”正成为一个全新的流行语。 (火锅—名詞) (中经)

2. 現代日本語と中国語の受動について

2.1 日本語の受動について

謝(2009)は迷惑の度合いを基準に、日本語の受動を、認知言語学のプロトタイプの考えに基づいて最上位階層の典型的受動「直接受動」から最下位階層の非典型的受動「迷惑の受動」に3分類した。対応する能動文の有無、使用動詞の性質、主語の迷惑の意味の有無、主語の位置にある主体と目的語の位置にあるものとの関連性などから考察し特徴を表1の

¹ 本論文は漢日語言対比研究論叢(第2輯) pp205~218 (2011)に掲載された筆者の提出前の論文(タイトルは同じ)である。

ように纏めた。

最下位にある非典型的iii類「迷感受動」は、対応する能動文がなく、自動詞と他動詞の両者が使用され、例文(6)のように能動文とは全く関係ない新しい主体「私」が文に新たに加えられ、ある人の行為やある事柄の状態によって迷惑を受ける意味を表す。迷惑の度合が一番強い。

i 類 直接の受動

- (4) 太郎は花子に叱られた。 (受動文) (叱る—他動詞)
花子は太郎を叱る。 (能動文)

ii 類 関係事物の受動

- (5) 花子は太郎に服に泥をつけられた。 (受動文) (つける—他動詞)
太郎は花子の服に泥を付ける。 (能動文)

iii 類 迷感受動

- (6) (私は) 妻に死なれた。 (受動文) (死ぬ—自動詞)
妻は死ぬ。
(7) (私は) 彼に不安を抱かれる。 (受動文) (抱く—他動詞)
彼は不安を抱く。

表 1 日本語各類型受動の特徴

	他動詞	自動詞	対応する能動文	主語の連体格化	主語の迷惑性	主語の増加
直接受動	+	-	+	-	-+	-
関係事物受動	+	-	+	+	-++	-
迷感受動	+	+	-	-	+++	+

非典型的な受動iii類の迷感受動の中で、自動詞による受動は多く、許(1997)によると使用できる自動詞は218語自動詞の中で171語にも上り、その中でもよく使われるのは52語であるという。これらの自動詞には人間の活動や動作を表す動詞が多い。

2.2 中国語の受動について

多くの対照研究が指摘するように、中国語の受動表現には日本語との類似点も相違点もある(大河内(1974)、楊(1989)、中島(1992))。謝(2009)は日本語と同様に中国語の受動表現を、典型的な「直接受動文」、自動詞による「迷感受動」、および、持ち主の「関係事物受動」、に3分類した。日本語と異なる点は、自動詞の迷感受動の用例が少なく、かつ、結果補語を伴う等の厳しい制限を受けることである。

i 類の直接受動は日本語と同じく、対応する能動文があり、他動詞が使用され、主格に立つ主語が能動文の目的語の位置から昇格して動作の影響を直接受け、被害を受ける場合もあればそうではない場合もある。ii 類の他動詞による関係事物の間接受動文も中国語に存在し、対応する能動文があり、直接影響を受ける「受け手」は目的語の位置に残され、主語に立つものが間接に影響を受けている。

i 類 直接受動

- (8) 我被他打了。(私は彼に殴られた。) (受動文)
他打我了。(彼は私を殴る。) (能動文)

ii 類 関係事物の受動。

- (9) 他被狗咬伤了手。(彼は犬に手を咬まれた。)(受動文) 中島(1992)
狗咬伤了他手。(犬は彼の手を咬んだ。)(能動文)

iii 類 迷惑受動 自動詞

- (10) 被他这么一坐、我什么都看不见了。(座る:自動詞) 楊(1989)
(彼にこうして、座られると、なにも見えなくなってしまった。)

iii 類の自動詞による受動文は日本語と同様に、能動文と全く関係ない主体が主語の位置に置かれ、事態の影響を間接的に受け、対応する能動文がなく、迷惑の意味だけを表わす。日本語と異なり用例が少ない。日本語のような統計はないが、よく挙げられる例は「死(死ぬ)、跑(逃げる)、坐(座る)来(来る)、去(行く)、进来(入る)、走(歩く)」である。

例文(11)のようにiii類の他動詞による迷惑受動は中国語にも存在するようである。しかし、日中比較先行研究ではそのような指摘が見られない。次の例文(11)²について、大河内(1974)は「客体(目的語の縄)がそのまま元の位置に残される」間接受動としている。謝(2009)を含め、その後の先行研究はこの考えに沿って来た。しかし本研究では、この中国語のiii類を日本語の他動詞による第三者の迷惑受動に当たる、と考えを改める。つまり、目的語「绳索一縄」が元の位置に残るだけでなく、意味的には全く関係のない第三者「敌人一敵」が主語の位置に被害者として存在し、或いは加えることができるが、ただこれらが非明示であるだけである、と考えるのである。日本語と異なる点は、この類は現代中国語では稀にしか見られないことである。

- (11) (敌人) 被我咬断绳索、(我) 到得这里。(咬—他動詞)(受動文)
(私に縄を咬み切られて、ここに来る羽目になった。)(大河内)
(11)' (敌人) 被我咬断绳索。(受動文)
我咬断绳索。(能動文)

このように、日中の直接受動は類似し、関係者受動にも類似点があるが、iii類の迷惑の自動詞受動と他動詞受動には異なる点が多い。迷惑受動については明らかになっていない部分もあり、特に近年の中国語の受動表現の変化と揺れから再研究の余地がある。次節では変化しつつある中国語の受動表現を見ていく。

3. 流行語から見る現代中国語の非典型的受動表現の変化

日本語と比較して、最下位に位置する非典型受動「迷惑受動」が中国語で用いられることは少なく、他動詞による「迷惑受動」は稀であることを本研究で初めて指摘した。

しかし、最近では特殊な例として流行している被字句から考えると、迷惑だけを表す受動表現が大量に生み出されている。例文(1)－(3)のように“被”と共に起する迷惑受動の述語には従来の他動詞だけでなく自動詞、形容詞、名詞までも用いられるようになってきた。王(2010)はこの新しい受動表現を特殊被字句としているが、管見の限りでは、日本語との比較研究、特に歴史的に考察する研究はまだ見当たらない。本節では述語の形態、性質、構文的意味的特徴などの観点からこの新しい受動表現を考察する。

²本研究では例11を日本語の他動詞による迷惑受動にあたると考えているが、近代中国語研究ではこれを特殊の受動「特殊被字句」、「無主語受動」「零主語被字句」としている。唐で現れ始め、元で流行った後にすぐ廃れたが、現代中国語にも稀に見られる(崔2001)。

3.1 述語動詞の種類

この新しい受動表現は当初インターネットで流行し始め、昨今では話し言葉でもよく用いられつつある。筆者が現時点で検索収集した用例の範囲では、この新しい受動表現は4種類に分類できる。王(2010)と解釈が異なる点は他動詞と「被」によるiv類で、王(2010)は他動詞が減多に表れないとしているが、本研究ではある程度の量があるものと見ている。特に「被」助詞—介詞が動詞化され、受動動詞と使役動詞に変化している現象は興味深い。

i 類【名詞】受動文 (学分, 网络, 社会, 证书, 网瘾, 环保, 民主, 艾滋)

- (12) 为能获得学分、不得不疲于应付的现象。我们称此为“被学分”。(中青)
- (13) 被社会: 一半是学生 一半是“员工”。(中青)
- (14) 大学生仅为就业机会而非兴趣爱好, 在社会潮流携裹下无力突围而蜂拥加入考证大军, 这种为考证而考证的现象可称为“被证书”。(中青)
- (15) 个人隐私不胫而走, 被网络暴露无遗。人们称此为“被网络”。(中青)

ii 類【形容詞】受動文 (开心, 慈善, 富裕, 幸福, 环保, 一致, 稳定, 民主, 和谐)

- (16) “对住房、道路、居住环境是否满意”必须回答“满意”。于是, 那些原本在小康水平之下的群众, 一夜之间“被小康”了。(羊晚)
- (17) 经济被楼市繁荣了……国家被 GDP 强大了。(人民)
- (18) 本人不曾“被就业”……时常“被平均”, 看来贴子又要“被和谐”。(人民)

iii 類【自動詞】受動文 (增长, 就业, 自杀, 退休, 留学, 消费, 自愿, 结婚, 合法, 和平, 腐败)

- (19) 学生被学校就业了, 居民被统计富裕了。(羊晚)
- (20) 当事人的死因都被当地官方归结为“自杀”。人们质疑这种集中性的巧合, 开始在网络上使用并大量传播“被自杀”一词。(羊晚)
- (21) 在父母的安排下, 有一些学生既不知道自己为什么要出国, 又对国外学习、生活没有做好准备, 就“不明不白”地出了国。如此被动的留学选择被一些留学生自嘲为“被留学”。(中青)
- (22) 大学生一次次身不由己地消费, 有的碍于人情颜面, 有的迫于某种压力, 这些大多是校园环境影响下的超承受力消费, 有人称此为“被消费”。(中青)

iv 類【他動詞】【介詞—被】受動文 (评估, 信任, 统计, 代表, 被)

【他動詞】受動文

- (23) 居民被统计富裕了。(人民)
- (24) 据了解, 像李魏这样获得奖学金的学生, 几乎都被要求自愿捐款了。(中青)
- (25) 洛阳的听证代表争着举手赞成涨价, 好像不太合乎情理, 不由让人怀疑: 这些人是不是消费者代表? 对此现象, 有网友戏称为“被代表”。(嘉日)

【介詞—被】受動文

- (26) 被“被”者就是食物链的下游, “被”人者是食物链的上游。(被る、被せる)(腾博)
- (27) “被”人者王, 被“被”者寇。(被らせる、被る)(腾博)
- (28) “被”字横行的年代, 你无路可逃, “被”是天罗“被”是地网, 一不小心你就被

“被”了，小心翼翼你还是被“被”了。（被る）（騰博）

(29) 我们被“被”由来已久。（被る）（中青）

3.2 述語の性質の変化

前節のように“被”と共起する文の述語として名詞、形容詞、自動詞、他動詞、「被」助詞が使用されている。述語の性質と形態が次のように意味的にも形式的にも転じ、変化していると考えられる。特に以下の③【助詞】の「被」が受動動詞と使役動詞に変化している例がよく見られるので、その歴史的経緯を検討してみたい。例えば、例文(2)は「事件の敏感性のため、彼のブログが「調和」の名義で削除された」との意味になる。例文(27)は「(被害を)被らせる人が王で、(被害を)被られる人が敗者である」になり、使役化と動詞化が行われた例である。例文(13)も「社会(人)化され、半分は学生で半分は社員です」との意味になる。(例文(13)、(2)、(27)を再掲)

名詞の動詞化

(13) 被社会：一半是学生 一半是“员工”。(社会(名詞)→社会(化)する(動詞))

形容詞の他動詞化

(2) 他的 blog 被和谐了。(和谐(形容詞)→削除する(動詞))

介詞「被」の再動詞化・受動詞、他動詞化・使役化

(27) “被”人者王，被“被”者寇。(被らせる(使役)、被る(受動詞))

現代中国語では既に「被」は受動文の動作主をマークする助詞と動詞を補助する助動詞に変化してしまい本来の実質的な意味を失っているが、本来の意味は名詞でありその後動詞「被る」に変わり、最終的に助詞と助動詞に変化した³。しかし例文(27)では「被」が再び過去の用法の動詞として使われている。

つまり古代漢語の「被」は、①【名詞】→②【動詞】→③【助詞(助動詞)】のように今日まで変化してきたが、新しい受動の「被」の変化は①【助詞(助動詞)】→②【動詞】のようにその逆の方向へ再動詞化したとも言える。

また再動詞化と言っても受動詞化「被る」と、使役化の「被らせる」の2種類があり、受動詞の場合は再動詞化であるが、使役化は他動詞化であるという新しい現象が現れていると考えられる。

【再動詞化】被“被”者寇。(被1：られる。被2：被る)

①【名詞】→②【動詞】→③【助詞(助動詞)】→②【再動詞化】受動詞(被る)

【使役化】“被”人者王(被らせる)

①【助詞(助動詞)】→②【動詞】使役化(被らせる)

このように受動動詞の性質が新しく変化している。特に「被」は古代漢語の意味に戻り、再動詞化・受動詞化した。しかし新たに使役化という現象によって、受動が使役と重なる被字句は受動の範疇を外れているようなので、本論文では深くは言及しない。

3.3 新しい受動文の意味的特徴

³孫(2008)によると古代漢語では戦国時代は名詞で次第に「被る」という受動動詞に変化し、漢の末期と両晋時代は動作主をマークする助詞「介詞」と動詞の前に来る助動詞に使い始めた。例1：被，寝衣也。(名詞) 例2：被明月兮佩宝璐。(動詞一被る) 例3：信而见疑，忠而被诱。(助動詞「被」+V)

本節では動作主の有無、対応する能動文の有無などから、前節の4類の構文的意味的特徴を検討する。

i 類【名詞】受動文

例文 (3) のようにその名詞が関連している好ましくない状況のため、主語の立場に置かれている主体が被害を受ける。「文化火锅」の英訳ができなかった好ましくない状況が受験生を困らせたという意味で、“我被火锅了”（私が「火锅」された）が流行語になった。本来主語の立場に置かれる主体と共起できない名詞を共起させる点で、新しい主語が増加、第三者の迷惑受動とも言える。また名詞句は名詞が関連している好ましくなく状況を表し、その状況を表す述語さえ表面に出ていないので、動作主がない。例文 (14) の「被证书」、例文 (15) の「被网络」も、「资格」に追われている状況、インターネットに勝手に個人情報を出されている状態を表している。主語に置かれる主体がその状況と状態によって迷惑を受けている。(例文 (3) を再掲)

- (3) “我被火锅了” 正成为一个全新的流行语。 (受動文) (名詞)
×英语作文“文化火锅”“火锅了我。 (能動文)

ii 類【形容詞】受動文

形容詞受動文は、形容詞述語が表している状態が主語の位置に置かれている主体にとっては全く知らない或いは関わりのないと思われる事柄であり、その全く関連性のない状態、事柄と関連させられ、被害と不愉快を受ける。例文 (2) のように彼はブロックの削除と関係ない「社会の調和」という口実で国家機関からブロックを削除された。例文 (16) は「小康」という裕福状態は、主語の「群众」が知らないうちに裕福とされ、その事柄によって不愉快の被害を受ける。例文 (17) も「楼市繁荣」不動産の繁荣と「GDP 强大」GDP データの増大は我々国民の経済の繁荣と、我々の国の強いこととは無関係であり、或いは事実と異なる。自分と関連があることに関する反事実の言行によって主語が被害を受ける。反事実形容詞受動は名詞受動文と異なり、動作主が表面上は非明示だが、何らかの公的機関、例文 (13) の場合はネット情報を監視する機関、例文 (16)、(17) は統計、報道する公的機関、等が想像できる。i 類と同様に、例文 (2) のように対応する能動文がない。(例文 (2)、(16)、(17) を再掲)

- (2) 他的 blog 被和谐了。 (受動文) (形容詞)
×他们和谐了 blog。 (能動文)
(16) ……那些原本在小康水平之下的群众，一夜之间“被小康”了。
(17) (我们的) 经济被楼市繁荣了，……(我们的) 国家被 GDP 强大了

iii 類【自動詞】受動文

自動詞受動文は更に2種類に細分化できる。例文 (19) では大学が業績向上のために就職数を水増して未就職学生が知らないうちに就職とされた。主語に置かれている学生は「就職」という事柄と関係なく、事実でない行為に「就職とされた」ことで不愉快になるとの意味が込められている。対応する能動文はない。無関連なことと関連させられる点で i 類と ii 類は類似する。例文 (21) は反事実ではなく確かに留学するのだが、知らないうちに「父母」に「留学する」ことを進められ、留学することになる。つまり留学は自分の行為ではなく、留学という結果を受けるだけである。その全く知らない事柄

に関連させられる点で例文 (19) と同じである。動作主 (例文 (19) は「学校」で例文 (21) は「父母」) は明示される場合と非明示の場合がある。王 (2010) は新しい受動は事実と反して風刺の意味があるとしているが、例文 (21) の「被留学」、例文 (22) の「被消費」のように例外が多く見られるので一概に論じることができないと本研究では考える。(例文 (19)、(21) を再掲)

(19) 学生被学校就业了。 (受動文) (自動詞)

×学校就业学生了。 (能動文)

(21) 在父母的安排下……如此被动的留学选择被一些留学生自嘲为“被留学”。

iv類【他動詞】受動文

例文 (23) も同じく「住民」が公的機関の統計では「裕福」と統計されたが、実際には統計していないかデータを改ざんされただけで、実際には裕福ではないとの意味が込められている。その述語が表している事柄とは全く関係なく、それで不愉快になる。例文 (25) は消費者を代表している、或いは消費者の代表であるという2通りの意味があるが、ここでは動詞と見る。2通りの真の意味は、消費者の代表にさせられたのであれ事実と異なる、全く関連ない事柄と関連させられ迷惑である、との意味合いである。他動詞の場合は次のように形式的には能動文が可能であるが、意味的には対応する能動文がない。(例文 (23)、(25) を再掲)

(23) 居民被统计富裕了。 (受動文) (他動詞)

○统计居民富裕了。(能動文) (形式的) ×统计居民富裕了。(能動文) (意味的)

(25) 不由让人怀疑：这些人是不是消费者代表？对此现象，有网友戏称为“被代表”。

○代表消费者。(能動文) (形式的) ×代表消费者。(能動文) (意味的)

iv類【介詞—被】受動文

「介詞—被」受動の動詞“被”は動作の対象を伴い、本研究では同じ類に分類している。3.2節の例文 (27) のように、更に「再動詞化」(被る—受動詞)と「使役化」(被らせる—使役化)の2種類に細分類し考察することも可能である。また具体的な被害に言及しないので文章と会話の中で語用的に被害者と動作主を判断し理解することになる。例文 (28)、(29)のように、誰かに何かをされ何らかの被害を受けるという意味がある。「介詞—被」受動の動作主は不定で明示されない。

(27) “被”人者王，被“被”者寇。(被らせる(使役)、被る(受動詞))

(28) “被”字横行的年代，你无路可逃，“被”是天罗“被”是地网，一不小心你就被“被”了，小心翼翼你还是被“被”了。(被“被”：被られる)

(29) 我们被“被”由来已久。(被“被”：被られる)

以上のように4類の共通の特徴は、主語の位置にある被動作主は動作の受け手ではなく、関連性のない好ましい状況、事態、コントロールできない言動の結果、事実と反する事柄に関連させられ、一方的に被害を受ける点、対応する能動文がない点、日本語の第三者の迷惑受動に当たる側面がある点、である。動作主は、i類では存在しない、ii類では公的機関など想定できるが非明示、iii類とiv類では存在するが明示の場合と不明示の場合がある。iv類【介詞—被】受動文は他の類と異なり少し特殊である。

また、この新しい受動表現は、例文(16)、(19)、(20)、(21)、(22)のように、日本語の「使役受け身」の「無理やりにさせられる」に類似した意味を持つという側面もあるが、次のように、主体の行為ではない、或いは自分の無意識的な行為の結果を受けて迷惑を被るという意味で本研究では「迷惑受動」とする。

例文(16)が示す状態は、主語の位置に置かれている主体にとってはまったく関連がない。例文(19)(20)が示す状態は、主語の位置に置かれている主体にとって非事実の行為で、まったく知らない事柄と関連させている。(例文(16)、(19)、(20)、(21)、(22)を再掲)

(16) ……那些原本在小康水平之下的群众，一夜之间“被小康”了。

(19) 学生被学校就业了，居民被统计富裕了。(羊晚)

(20) ……开始在网络上使用并大量传播“被自杀”一词。(羊晚)

(21) ……如此被动的留学选择被一些留学生自嘲为“被留学”。(中青)

(22) ……这些大多是校园环境影响下的超承受力消费，有人称此为“被消费”。(中青)

例文(21)(22)が示す結果は、主語に置かれている主体の自分の意志をまったく反映していない、あるいは、無意識の行為の結果であるが、その無意思・無意識な行為の結果に被害を受ける。状態との「無関連性」、行為の「無意思性」、結果の「迷惑性」という意味で「迷惑受動」と見てよいと考えられる。

4. まとめ

本研究は変化しつつある中国語の非典型的受動を中心に日中対照比較の観点から検討した。中国語の非典型的受動の特徴は次のように纏められる。

- ① “被”と共に起する文の述語として名詞、形容詞、自動詞、他動詞、「被」助詞が使用されている。述語の性質が意味的にも形式的にも従来のものから変化している。
- ② 動作主は、存在しない場合と、述語部の表している状態と結果、事柄と何らかの関わりがある第三者(公的機関など)を想定できる場合とがあり、明示される場合もされない場合もある。
- ③ 共通の特徴は、主語の位置にある被動作主は動作の受け手ではなく。関連性のない好ましい状況、事態、コントロールできない言動の結果、事実と反する事柄と関連させられ、一方的に被害を受ける。
- ④ 対応する能動文がない。
- ⑤ 日本語の第三者の迷惑受動に当たる側面がある。

中国語の受動が変化しつつある。これまで自動詞と他動詞による第三者の「迷惑受動」は少なかったが、極最近では「迷惑受動」が大量に現れ始め、自動詞だけではなく形容詞や名詞まで使用されている。日本語の受動に類似しつつある傾向と言えよう。「迷惑受動」は日本語だけの特殊な表現ではなくなりつつあるとも言える。しかし、名詞と形容詞の使用のように日本語の自動詞と他動詞による「迷惑受動」とは異なる点があることや、場合によっては日本語の「使役受け身」と類似する点もあると思われ、今後の課題にしたい。

ているか」という貴重なご質問が本研究遂行の大きな示唆となった。感謝します。

参考文献

- 王开文 (2010) 〈表示反讽的非及物动词被字结构〉《语言教学与研究》第 2 期
- 崔宰荣 (2001) 〈唐宋时期的特殊“被”字句〉《语文研究》第 4 期
- 孙慧 (2008) 〈浅析汉语被字式的演进历程〉《安徽文学》第 6 期
- 大河内康憲 (1974) 「被動が成立する基礎」『中国語の諸相』大河内康憲著 白帯社
- 許明子 (1997) 「間接受動と自動詞の関係に関する一考察」『比較社会文化研究』
- 謝新平 (2009) 『日中両語の他動性に関する研究—いわゆる周辺問題を中心に』博士論文
未刊行
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味』1 くろしお出版
- 中島悦子 (1992) 「間接受身の成立—日本語と中国語—」『ことば』13 号現代日本語研究会
- 三上章 (1953) 『日本語の構文』くろしお出版
- 楊凱榮 (1989) 「文法の対照研究—中国語と日本語—」『講座日本語と日本語教育』第 5 卷
日本語の文法・文体(下)山口佳紀編明治書院

例文出典

- <http://www.youth.cn> (中青) <http://www.psybook.com> (南周)
- <http://www.luckup.net> (羊晚) <http://bbs1.people.com.cn> (人民)
- <http://jxrb.cnjol.com/html> (嘉日) <http://qzone.qq.com/blog> (騰博)
- <http://edu.ce.cn/> (中经)